４７　キャンドルファイヤー

青森県立種差少年自然の家

○活動の概要○

ろうそくの火を囲みながら、語り合ったり、レクリエーションを楽しんだりします。

１　ねらい

自他を見つめ合い、共に活動することを通して、連帯感や友情を深め、楽しい思い出をつくります。
（小学校　特別活動　　中学校　特別活動）

２　場所・人数・期間・時間

① **人数**　プレーホール　１６０人以内、大ホール　１００人以内、小ホール２０人以内
② **期間**　通年
③ **時間**　１～２時間程度（ろうそくの燃焼時間は１時間程度）

３　職員の支援について

物品貸出し時に職員がつきます。活動支援に入ることはありません。

４　準備物

区　　分	準　備　物	備　考
団　　体	・フォークダンス等のＣＤ等	
個　　人	・特になし	
自然の家	・衣装 ・女神用トーチ ・手持ち用ろうそく台 ・燭台（しょくだい） ・ライター、マッチ等 ・アンプ、マイク、ポータブルプレーヤー	・女神１、付き人３、営火長１ ・プレーホール３ ・２７０台 ・２台 （プレーホール１、大ホール１）
斡旋可能	・ろうそく大 ・ろうそく小	・１本　２５５円 ・１本　　３５円

５　引率者及び参加者の役割分担

係　名	役　　割
代表責任者	・全体の掌握、指揮、連絡にあたる
救護係	・緊急時の救護にあたる

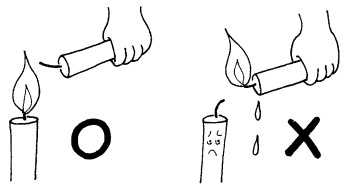
※参加者等の役割分担（例）

・司会者（１～３人）	プログラム全体の司会進行をします
・営火長（１人）	つどいの責任者で、迎火・送火のつどいで挨拶を行います
・女神　（１人）	メインキャンドルの入退場や、分火係への分火を行います
・付き人（１～３人）	女神の付き人として、補助を行います
・分火係（若干名、各班１人等）	分火された火を班員に分けたり誓いの言葉を述べたりします
・音響・照明・会場係・営火係（若干名）	会場設営をしたり、プログラムにあわせて音響・照明、キャンドルの火の管理をしたります

６　その他

・活動後は、ろうそくが全部消えたのを確認し、燭台はプレーホール等の中央に置いてください。
・片付けは、翌朝（清掃時）に行ってください。
・衣装や女神用トーチは所定の場所に返却してください。（プレーホール右部屋のロッカーの中）

7　活動の流れ（例）

時　間		活　動　内　容
第一部　迎火(げいか)のつどい	10 ～ 15 分	**～会場の照明をおとし、静かにスタートします～** 集　　合 ・ろうそくを持って、プレーホール前廊下に並びます ↓ 入　　場 ・静かに燭台を１周し、囲みます ↓ 夕べの歌 ・「遠き山に日は落ちて」（ハミング） ↓ 聖火入場 ・女神が火を持って入場し、燭台を１周して定位置につきます ↓ 女神の言葉 （資料参照） ↓ 分　　火 ・営火長は、女神から火を受け取り分火係へ分火します ↓（このとき、女神、付き人は静かに退場） 点　　火 ・分火係は、自分の席にもどり、班員に分火します ↓ 献　　詞 ・全員に分火されたら班ごとに献詞を述べます（資料参照） ↓ 集　　火 ・班ごとに燭台へ集火します ↓ 歌 ・「燃えろよ燃えろ」（校歌、団体歌、楽しい歌等）  点火の仕方
第二部　交流のつどい	40 ～ 80 分	↓**～会場を明るくして行います～** レ　　ク ・レク、スタンツ、フォークダンス等で楽しみます（全員が声を出し、体を動かし、楽しめるもの） ↓ 歌 ・心を落ち着かせ、参加者の気持ちをひとつにします ※営火係は中央のろうそくの火だけを残し他の火を消します。また、会場の照明も消します。
第三部送火(そうか)のつどい	10 ～ 15 分	↓ 営火長の言葉 ・キャンドルファイヤーや研修を振り返ります（印象に残る内容で）（資料参照） ↓ 歌 ・終わりの歌（一日の終わり、今日の日はさようなら等） ↓ 退　　場 ・「蛍の光」などを歌いながら、営火長→１班…と退場します

≪資料≫

＝女神の言葉＝

私は、太平洋のつかいとして、〇〇学校のみなさんに、聖なる火をつかわすために来た女神です。

火は、遠い昔から人間だけに与えられた宝物です。これまでの人間の歩みのたくさんの場面で、火によって、私たちの命は守られてきました。 しかし、この偉大な火が時には人の命を奪い、時には人類を闘争と破壊へと導いてしまうことも事実です。 私たちは、火を正しく使う心を忘れてはいけません。

みなさん、私の持つ火を静かに見つめてください。今、ここに赤々と燃えるこの火には、平和と友情と親睦の願いが込められています。

ここ種差少年自然の家で友達と一緒に過ごしたこの研修（宿泊学習）を振り返り、いっそう友情の輪を広げていきましょう。

＝営火長の言葉＝

今、皆さんの友情と団結を深めるために迎えた火のもと、楽しい時間を過ごしてきました。

私たちは、青い海原と深い森に囲まれた種差の大自然のもとで、全員協力して、実りある生活ができたことに、そして、たくさんの喜びと新しい友、新しい自分に出会えたことに感謝します。

私たちは、この聖なる火のともしびが、思い出とともに末永く私たちの胸の中に残ることを信じて、このつどいを閉じたいと思います。

〇〇年〇月〇日　　営火長　〇〇　〇〇

＝献　　詞（グループごとのとき）＝

第一グループ	友情の火	私たちは友情を大切にすることを誓います。
第二グループ	社会に尽くす火	私たちは社会に尽くすことを誓います。
第三グループ	自然を大切にする火	私たちは自然を大切にすることを誓います。
第四グループ	誠実の火	私たちは誠実な人間になることを誓います。

献詞のテーマの例

※火の４つの教え①「火は明るさを与える」＝**社会に明るさをともす**

②「火は暖かさを与える」＝**おもいやりをもつ**

③「火は１つでは暗く弱いけれど、数多くの炎が集まると、より明るく強く温かくなる」＝**友情・協力の大切さ**

④「火は自らを焼き尽くしながら周りを明るくする」＝**奉仕の心**

※友情・努力・尊敬・協力・希望・助け合い・思いやり・家族…など、めあてを生かしたもの

＝献　　詞（一人のとき）＝

家庭や学校からはなれ、海と山にひたり、青く広がる種差海岸を見たとき、自然の美しさをしみじみ感じます。

友達と一緒に汗を流しながらの活動、風呂での背中の流し合い、食事中やベッドの中でのおしゃべりなど、初めての経験から、「友達っていいな。」と感じました。

今日のこの感激を忘れることなく、この燃える炎のように、友情の火をいつまでも燃やし続けていきたいと思います。

〇〇年〇月〇日　　代　表　〇〇　〇〇